

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	しびらきっず		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 7日		2025年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2025年 1月 7日		2025年 1月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができています。情報伝達の配慮がなされています。	日々の送迎でのやり取りの中で、保護者と本人の様子を伝え合うことが出来ています。また、情報の伝達方法も電話やメール、連絡帳など、各家庭が使いやすいツールを使っています。	日頃関わっている職員が送迎を行うことで、こどもの様子を伝えることは継続していきます。また、情報のやり取りについては、システムの導入を図り、よりスムーズな伝達を心がけます。
2	子どもが安心感をもって通所し、通所を楽しみにしている。	日々のプログラムに加え、外で体を動かせる機会を積極的に設けています。また、室内か外活動かを自分で選択できるような機会を作っています。	日常生活動作から社会活動を含めたプログラムなど、様々な目的を持ったものを考え、楽しく取り組めるようなプログラムを取り入れて参ります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしている。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援について。	年に2回で予定を立てましたが、学校行事と重なってしまい実施できないこともあったため、日程の設定を検討します。	内容についても、保護者同士だけでなく、きょうだいや親子などテーマを持った交流の機会を設けていきます。
2	生活空間がこどもにわかりやすく構造化された環境になっていない。事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮がなされているとは言えない。	建物の構造上、個室やバリアフリー化が難しい状況です。	こどもの特性によっては、刺激の多い環境になってしまうため、パーテーションやロールカーテンなど視覚を遮る効果のあるものの導入を検討します。